



Be creative !

2年生 GFS II 美浜町とのPBLに取り組む (Project Based Learning)

3月3日(木)、2年生の総合進学コースの皆さんが、半年間に渡って美浜町役場の皆さんと取り組んできた探究学習の発表会が行われました。短い時間での取り組みながら、多様な視点から私たちの学校が存在する美浜町の課題に対して提案をすることができました。形あるプランにするには、まだまだ練り直しをしなければなりません。美浜町役場の皆さんからも、この間ご指導をいただいた日本福祉大学社会福祉学部行政専修学科長田中優先生からも、高く評価をしていただくことができました。

発表は以下の6つのテーマで行われました。

1. 竹炭を活用した商品開発
2. ツメタガイを美浜町のブランドとして確立されるためには
3. 若者に観光として美浜町を訪れてもらうようにするには
4. 運動公園遊具設置提案
5. 空き家の利活用
6. 学校再編



ここでは、田中先生の評価を基にしながら、私なりに2年生の皆さんの取り組みを振り返ってみたいと思います。

A. 高校生としての発想を大切にす

「高校生ならではの発想が大事にされていますね」と田中先生。炭と海音貝を合わせて作るせんべいに「すみね」のネーミング。単純ながらこの語呂の良さの感覚はさすが高校生。遊具チームの考えた運動公園の名前「あつびぼ(あつまれぴーぼー)」も同様。「美浜版ウーバーイツ」も現代っ子ならではの発想であり、なおかつ、それがプロジェクトを実現に近づける有効な手立てとなっています。お見事です！

商品化について

- ・海音貝と竹炭の知名度を上げる
- あまり市場に出回らない海音貝
- 使用方法が分かりにくい竹炭



- ・美浜町にある「えびせんべいの里」とコラボレーション

B. ステップを踏んだプロセスが大事

観光を考えたチームの取り組みに視点を当ててみましょう。アンケートの結果から、そして互いの意見交換から「美浜町は観光地というより生活の場」と規定し、そのうえで、美浜町の観光を考えた。導き出された考えは、「観光客だけではなく、町民が納得できる開発」「町の未来につながる取り組みでなければ投資はできない」、これを出発点に据えて、美浜の観光について考えていきます。同様のことは運動公園の遊具を考

えたチームにも言えます。彼ら

が大事にしたことは「リサーチをすること→ターゲットを絞ること→ビジョンを明確にすること」でした。その最終的にたどり着くビジョンをしっかりとイメージして、そこから思考を開始する「バックキャストिंग」という言葉も覚えましたが、一番上にある図は、その結果、発案された運動公園の遊具のデザイン図です。ビジョンがしっかりと存在するデザインとなりました。

美浜町のメリット、デメリット

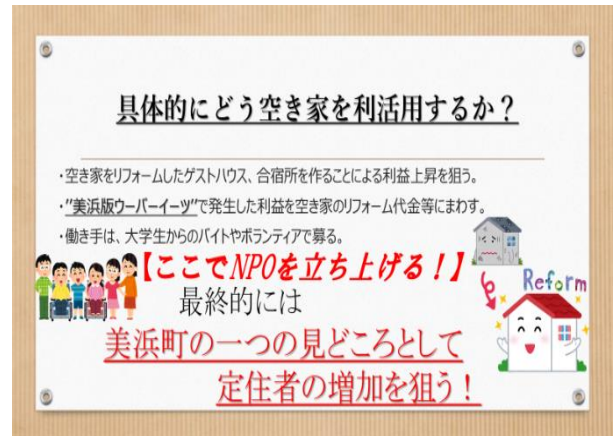
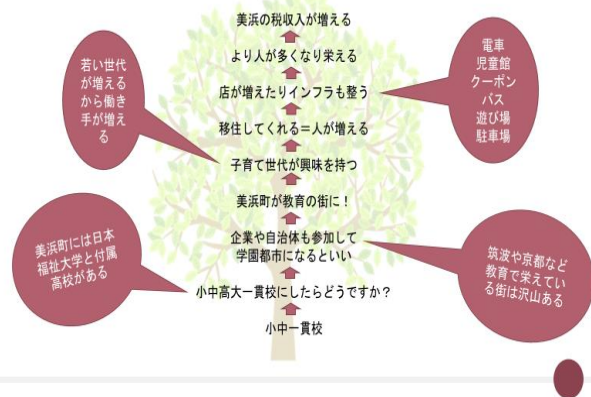


C. 発想を実現する道筋を見出す

自分たちの考えたことがどのような道筋を通して実現へと近づいていくのか、探究においてはその見通しを持つことが大事です。学校再編のチームは「フローチャート」という方法を使いました。「小中一貫校」が美浜町にできることにより、町にどのような発展を見通すことができるのか。この方法を使うと、具体的にイメージを広げることができ、思考を発展させていく有効なツールとなります。覚えておくと、他の場面での活用も可能です。

今回の発表は丸山理事長もZOOMで参加してくださっていました。特に「空き家の利活用」チームの発表を聞かれて、「様々な視点から考えられていることに感心した。」と評価されていました。そして田中先生からは、その発想をつなぎ、実現していく運営母体を立ち上げるまで思考を深めたことが評価されました。開発を行っていく場合、それが持続可能な開発(Sustainable development)となりうるのかどうか重要なポイントになります。

学園都市に向けてのフローチャート



各校の校歌をCDに

小中一貫校になったら各校の校歌はどうしたらよいか?

- ・各学校の校歌を楽譜におこし、たくさんの生徒に知ってもらう
→音楽で歌うor玄関前に飾る
- ・吹奏楽部の演奏に合わせ、全校生徒で合唱しCDに残して保管
→各学校の校歌を忘れないようにするため



部活動交流の一環として、ぜひ付属高校の吹奏楽部や音楽部、ダンス部などとコラボしたら楽しいかも!?

D. 大事なものは“オーナーシップ” (Ownership)

「オーナーシップ」とは「当事者意識」のこと。田中先生は「大事なことは課題を『自分ごと』としてとらえること」と言われました。例えば、学校再編のチームは、学校が再編されることにより、消えていく校歌を残すにはどうしたらいいのか、その時に、本校の部活動が貢献できることはないかと考えました。また、観光のチームは「美浜町にある学校に通う自分たちは、観光客にも支援者にもなれる存在である」ということに探究活動の中で気づいていきます。美浜町の抱える課題を真正面から考えることによって、たどり着くことができた考えであると思います。

E. みんなの提案を縦横につなげて考えてみる

最後に田中先生が言われたのは「みんなの提案をつなげて考えてみてごらん。」ということでした。美浜町の課題に関わるトータルなデザインが見えてくるはずです。すでに発表の段階で、他のチームの課題にあえて結び付けて考えを語っているチームもありましたが、改めて、どこがどのようにつながっているのか、どこどこをつなげれば、またさらに新しい活路が生み出されるのか、ぜひとも整理してほしいと私も思いました。

一年間、ご愛読ありがとうございました。

2021年度「校長室だより」最終号をお届けいたします。前校長の岩本先生は8年間に渡り、折々の生徒の取り組みを評価し、通信を毎月1号ずつ発行されてきました。その伝統を引き継ぎ、私も毎月1号ずつ、通信を発行することにしました。君たちの頑張りにより、毎月書くことは山のようにありました。何をどのように取り上げようか、迷うときもありました。何としてでもタイムリーに生徒・保護者の皆さんにお伝えしたいと思い、特別号を発行した月もありました。今回もすでに3月号は発行したわけですが、2年生の皆さんの頑張り後押しされ、今月再び、特別号を発行することにしました。来年度も生徒の皆さんの姿を追いかけて、「校長室だより」を発行してまいります。

一年間、ありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。



校長 山口喜久枝